

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4271101372
法人名	社会福祉法人せいひ会
事業所名	グループホーム翠風
所在地	長崎県西海市西彼町中山郷2118番地 (電話) 0959-29-5100
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成21年2月24日

【情報提供票より】 (平成21年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 7月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	18 人	常勤	17人, 非常勤 1人, 常勤換算7.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建て	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	7,500 円
敷金	有() (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(2月24日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	3名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 89歳	最低	83歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人琴生会大石共立病院、田中クリニック、西彼歯科診療所
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは豊かな自然に囲まれた法人の他介護施設と同敷地内に開設されている。特に今年度は新築されその佇まいは家そのものである。これまでの経験を基に居室やリビング、家族談話室など利用しやすい構造になっている。全職員で作上げた「最後まで悔いのない介護者であること。人間らしく生きてもらうこと。」という理念が浸透しており、職員の利用者に対する姿勢の柔らかさや、職員の介護に対する向上意欲が高く各職員が介護に関する目標を持っていることなどに表れている。またそれは利用者の表情や、利用開始後に穏やかになるなどの事例からも感じ取れる。ホームは法人の他施設と共に様々な委員会活動を行い積極的に研修や勉強会に参加できるようにしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果については、改善計画シートを作成し全体会議で話し合い、検討され意義のあるものと理解し活用されている。運営推進会議の2ヶ月に1度実施や看取りに関する書類の整備など改善に向け実行されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の記入も全員で取り組み、職員の不明な部分等は管理者が指導しながら行っている。年1回の評価は、マンネリ化防止や職員の意識の向上の見直しのいい機会と捉え、有効に利用されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回、西海市職員、地区長、民生委員、管理部長他職員のメンバーで、行事案内や報告、ホームの現状、職員の異動、地元行事の参加等の議題で開催されている。法人の存在や神社の特色を活かすことで、地区の活性化を図る話し合いもされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用開始時に苦情受付や第三者委員の設置を明確にし、玄関に意見箱を設けており、面会時や電話などで常に家族の意見等を抽出するよう努め、内容を職員間で話し合っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近くの神社の夏祭りや保育園での運動会等への参加や、法人内の敬老会には地区の高齢者も共に出席したりと、地域との交流を持っている。行事年間スケジュールをたて、地区の芸能保存会には職員も参加し、地域の活性化も念頭に積極的に交流することに努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で作り上げた「最後まで悔いのない介護者であること。人間らしく生きてもらうこと。」という事業所独自の理念を掲げ、その人らしく地域に密着した暮らしができるようなサービスを提供している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や誰もが目に付きやすい場所へ理念を掲示し、全体会議でその都度職員に確認しており、本人の思いを最も大切に日々の支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの神社の夏祭りや保育園での運動会等への参加や、法人内の敬老会には地区の高齢者も共に出席したりと、地域との交流を持っている。行事年間スケジュールをたて、地区の芸能保存会には職員も参加し、地域の活性化も念頭に積極的に交流することに努めている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果については、改善計画シートを作成し全体会議で話し合い、検討され意義のあるものと理解し活用されている。自己評価の記入も全員で取り組み、職員の不明な部分等は管理者が指導しながら行っている。年1回の外部評価は、マナー化防止や職員の意識の向上や見直しのいい機会と捉え、有効に利用されている。		

グループホーム 翠風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、西海市職員、地区長、民生委員、管理部長他職員のメンバーで、行事案内や報告、ホームの現状、職員の異動、地元行事の参加等の議題で開催されている。法人の存在や神社の特色を活かすことで、地区の活性化を図る話し合いもされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	昨年西海市地域密着型サービス事業者連絡協議会の設立により、西海市職員も含め、勉強会等の交流もあり法人管理部を通して随時、連絡や情報の交換が行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への連絡は毎月、せいひ会だよりと請求書を郵送しており、訪問時には面会し利用者の状況等を報告している。遠方の家族へは電話連絡を月2～3回必ずしている。金銭管理は法人管理部で行い、領収書は報告と共に郵送している。また職員の異動は家族の面会時に報告し、自己紹介も行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用開始時に苦情受付や第三者委員の設置を明確にし、玄関に意見箱を設けており、面会時や電話などで常に家族の意見等を抽出するよう努め、内容を職員間で話し合っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ほとんどの職員は法人内の他グループホームと兼務しており、異動があっても利用者の入所時記録やケース記録の詳しい記入により、誰でも情報が把握しやすく利用者への負担を考慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は掲示板に掲示され、誰もが参加できるよう勤務調整を行うなどして積極的に参加を促している。新人研修は法人内で介護体制や身体拘束などについて行われている。受講者は研修報告書を作成し、参加できない職員もレポートにより学習できる体制が整っている。職員の段階に応じた研修が受講できるように管理者は支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他グループホームとの交流やパールネットワークに参加し、意見交換会や勉強会等も行われており、その結果は全体会議で報告されている。また昨年11月に新築された当ホームへの見学に他のグループホーム職員が見学に訪れ、介護の意見交換が行われている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者は家族と共に見学に来所し、病院や他事業所、自宅から利用開始に至っている。入居時記録、診療情報提供書、ケース記録等で利用者の生活日課をしっかりと把握し、家族とよく相談しながら見守り体制で馴染めるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	その人らしさを大切にし、職員も家族の一員として利用者が自宅で過ごすように接しており、生活の知恵や料理の味付けや作り方を教わることが多い。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の会話の中から利用者の意向をくみ取っている。また場の雰囲気を感じるように気を配り全員の意向の把握に努めている。介護ケース記録に本人と家族の思いや日々の暮らしぶりが詳しく記入しており、全職員が情報を共有できている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望や医師の指示も含め、全職員で検討し、介護計画を作成している。計画表は家族にコピーを渡しており、遠方の家族へは郵送し電話で説明している。計画表に本人や家族の要望等の記入欄が設けてない。	○	家族や利用者の意向を全員が把握するために、今後、介護計画表に本人や家族の要望等の記入を追加し、欄外に家族が説明を受け、同意し、受領した旨の文言を挿入し、確認印をもらうことが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直しを行っており、家族と話し合い、ユニット会議で検討し、サービス会議を開き、計画を立てている。アセスメントを全員で取れるように、介護サービス調査表は担当者が記入している。変化があれば医師の指示を受け、食事形態やケアの見直しを話し合い、介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出、外泊、法事や墓参り、行きつけの美容院への送迎、散歩、買い物等、本人や家族の要望に沿った柔軟な対応ができている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時に本人や家族と話し合い、かかりつけ医を決めている。急変時の必要性を説明し、協力医の受診も家族の了解を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	平成20年度より看取りの指針や同意書をを作成し、本人や家族に説明を行っている。協力医療機関に診療情報提供票を作成してもらい、夜間等緊急対応時に役立っている。職員には本人や家族の意向を伝え十分な話し合いがなされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報守秘義務は職員の入社時に誓約書を作成しており、個人情報記録は利用者や訪問者の目に触れない所定の場所へ保管されている。マナー向上委員会活動として、利用者に対する声かけや、誘導時の対応、家族と電話や面談時の会話マナー等を全職員で取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用開始時に本人の日々の暮らしを、家族より詳しく聞き、個々の生活リズムを大切にしている。また日々利用者の様子や会話を見守りながら、その場の空気を読み、希望を汲み取っている。その情報は申し送りや個人記録で職員間でも共有されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じテーブルで談笑しながら同じ食事を取っており、利用者のできる範囲で台拭きや食器拭き、野菜の皮むき等の手伝いもされている。法人では給食会議が行われており、献立に季節や彩りを取り入れてもらうようにしたり、ソフト食も見た目を楽しんでもらえる工夫を話し合っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決められておらず、利用者の希望や状態で対応している。毎日入浴している利用者もあり、拒否や風呂嫌いの利用者には時間をずらし声かけし、工夫しながら週3回は支援している。また法人内に展望風呂があり、希望で利用できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は生活歴や日常の様子や会話から情報を収集し、畑の草取り、水やり、洗濯物たたみ、食器拭き等の役割を持ってもらったり、趣味の塗り絵、貼り絵、縫い物、カラオケ等もそれぞれの楽しみごとになっている。法人内の他の施設へ行き来し、利用者同士の交流も楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の要望があれば法人の定期買い物バスの利用し外出している。利用者の体調を考慮しながら、公園や神社への散歩、法人他施設にいる友人を訪問、リビングや談話室、洗濯干しなどで日々外気に当たるようにしている。また、季節の行事を企画し全利用者が外出するきっかけ作りも工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中施錠はしておらず、夜間のみとなっている。開放的であるが職員の見守り体制ができています。万が一でもまず同敷地内の法人他施設の職員の見守りや、地域との連携が整っている。		

グループホーム 翠風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災対策委員会を中心に年4回、防災訓練が実施されている。法人内の施設や消防署、神社の協力もあり、利用者も参加している。連絡網、避難経路、対策マニュアルも完備され、職員も把握している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士により、食事バランスがチェックされ、ケース記録により食事量や排泄等の確認を行っている。水分補給も好みの飲料等で常に支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花やカレンダー、行事風景の写真等が飾られ、利用者はこたつ、テーブル、ソファの好みの場所でくつろぎ、適度な音量のBGMが流れ、ゆったりとした家庭的な雰囲気でも過ごしている。廊下やトイレ、浴室などバリアフリー対策がなされ利用者の残存能力を活かす工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より使い慣れた物品の持込がされており、カーテンをつけたり、コタツやソファ、椅子等利用し、その人らしい部屋となっている。気の合う利用者同士、コタツでおやつを食べたりしている。居室はたたみかフローリングを好みで選ぶことができ、室温、換気も職員により調整されている。		

※  は、重点項目。